

学院

キャンパスだより

第3号



聖アンナ幼稚園もちつき会

■ 八戸短期大学看護学科申請 (3年制・入学定員80名 平成20年4月開学予定)

- 湊高台キャンパスリニューアル
- 八戸短期大学附属幼稚園開園案内
- 光星学院高校創立50周年記念式典・祝賀会
- 八戸短期大学附属幼稚園 星の子音楽会
- 地域住民の輸送にスクールバス運行

新年のご挨拶

学校法人 光星学院
理事長 中 村 覺

新年明けましておめでとうございます。

関係各位におかれましては、恙なく新しい年をお迎えしたことで、心からお慶びを申し上げます。今年も昨年以上に本学院の活躍を期待しております。

さて、本誌も今回で3号の発行となりますが、法人の設立50年目を機に創刊されたことは大変意義深く、今後も皆さんのご協力を得て大事に育てて参りたいと思います。

ところで、昨年は法人内・外共多くの方々のご協力ご支援をもちまして、光星学院高等学校創立50周年の記念行事並びに式典が盛大に開催されました事に対し、法人を代表し改めてお礼申し上げます。さらには、光星学院野辺地西高等学校におきましては、本年35周年を迎えますが、このことにつきましても、また多くの皆さんからご協力を得て、準備も順調に進んでいるところでございます。

また、法人の事業に目を向けますと、幼稚園、光星学院高等学校を中心とした湊高台キャンパスの整備が実施され、美保野のキャンパスは、八戸大学、八戸短期大学を有する高等教育機関としてのキャンパス整備を計画しております。こうした事業の一環として現在、新たに八戸短期大学に高等看護学科を、定員80名で20年4月の開設を目指して準備を進めております。

昨今、めまぐるしく変化する法人運営の中であって、その対応にはスピードが要求される状況ですが、法人全教職員一丸となって取り組んでおります。

すでに法人設立から今日まで50年の歳月が流れたわけですが、その間法人に関係した人々は、色々な事を経験されましたが、私はそうしたことを一言で表現しますと「人間、万事塞翁が馬」と思います。

人の世は禍福の定めがなく災いが福に変わり、福が災いとなることをたとえて、「人間万事塞翁が馬」ということは皆さんもよく知っているところでしょう。人間の世は常に良いこと、悪いことが同居していて、その繰り返しであり、苦しく不幸といえどもひたすらに生き抜く努力がある限り、不幸は幸に変換するといつて、悲観し自暴自棄になりがちな人間に、希望を感じ前向きに生きていくことを説いたものです。

今、社会全般が大変だといわれる時代にあって、ただただ悲観だけするのはどうかと思う。大変だからこそ前向きに努力をするわけで、それがまた次の時代へと繋がっていくと思うのです。努力を続けていくところに、必ず良いことがあると信じたい。

学院のキャンパスは整備されます。今まで以上に教育環境は向上します。これからは中身の問題です。皆さんにおいても、それぞれの立場で、それぞれの使命と目標に向かい、今年もより一層明るく元気に共に進んでいきましょう。

年の始まりにあたり、関係各位の御指導・御鞭撻をよろしくお願い致します。

●●● 聖書の言葉から ●●●

「見よ、わたしが、イスラエルの家とユダの家に恵みの約束を果たす日が来る、と主は言われる。その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。その日には、ユダヤは救われ、エルサレムは安らかに人の住まう都となる。その名は、「主は我らの救い」と呼ばれるであろう。」
(エレミヤ書33章14-16節)

新年おめでとうございます。まだまだ寒いこの時期、毎年思うのですが、「新春」とか「迎春」という言葉は、「西暦」よりも「旧暦」の時期の方がしっくりきますね。

ご存知のように「西暦」の考え方は、多少誤差はありますが、キリスト誕生の年を基点に紀元前と紀元後に分けられていますので、キリスト教と深い関わりがあります。しかし、キリスト教の祭日や行事は、さらに独自の「典礼暦」という暦に

基づいています。典礼暦の新年は、クリスマスから3週間前の週の日曜日になります。だいたい11月末か12月はじめです。この日は新年の始まりであるとともに、この日から、降誕祭を4週間に渡って待つ「待降節」が始まります。いわばクリスマス準備期間の、最初の日です。「待つ」ためには、それに先立ち「希望」がなければなりません。キリスト教の新年は、「救い」の訪れを「希望」し、「待つ」祈りで始まるわけです。上の引用は、待降節最初のミサで読む箇所です。かつてイスラエルが分裂し、滅ぼされ、神殿も壊され、望みが失われた時期に、エレミヤという預言者が救い主の到来を告げた場面です。希望を得ることで、ユダヤの民は受難に耐え、その後、再びエルサレムに神殿を建て直しました。新年にあたり、希望を新たにしたいものです。

(木鎌耕一郎＝八戸大学ビジネス学部助教授
(宗教学・キリスト教概論))



八戸短期大学「看護学科（仮称）」の開設について

学校法人光星学院は、八戸短期大学に看護学科（仮称）を開設すべく、設置構想の概要について以下のとおり発表した。

1. 基本構想

- ①学科名称等 看護学科（3年制、入学定員80名、収容定員240名）
- ②設 置 者 学校法人 光星学院
- ③開設年月日 平成20年4月1日（予定）

2. 看護学科設置の趣旨・必要性

①これまでの経緯

平成17年5月に発足した「八戸大学・八戸短期大学教育研究社会貢献後援会」が「八戸地域の健康の未来像を考える」をテーマに同年11月に開催したパネルディスカッションにおいて、パネラー諸氏から提言のあった、ア. 看護師養成の高度化を実現するための八戸市・医師会・学校法人・他看護施設との共同・協力による看護学部等の新設、イ. 隣接地域に健康関連施設を総合的に配置する「健康づくり村」構想などを受けて、本法人では今日まで関係諸機関等との話し合いを通じて検討を積み重ねてきた。さらに、平成18年4月に診療報酬が改定されて看護師の配置基準が厳しくなったため、看護師不足に拍車をかける状況となっており、県内でも大病院を中心に看護師の大幅増員を進めている。

②高度化する看護師養成への対応

青森県における看護師の養成は、平成18年度現在19校で入学定員930名となっているが、そのうちの3分の2にあたる620名が専門学校等の養成施設で養成されている。医療の高度化に対応した質の高い看護師の養成が求められている現状にあって、大学・短期大学の高等教育機関における養成は、青森

市・弘前市の4校、310名にとどまっている。

③八戸圏域の看護師養成の現状

県全体で930名の入学定員のうち、八戸市内は190名（20.4%）に過ぎず、十和田市、三沢市の県南地方全体を含めても240名（25.8%）という状況にあり、看護師・准看護師養成の4分の3が津軽地方に集中している。さらに、看護師に限定すれば県全体で690名のうち県南地方では140名（20.3%）となっており、八戸圏域における看護師養成の体制拡充が求められている。

以上のような状況から、本法人が八戸市・医師会等の関係者と意見調整を重ねた結果、さらに、八戸市立高等看護学院運営委員会が決定した「当面高看存続」の現況においても、看護師養成の高等教育機関設置の必要性について大筋で賛意を得たものである。

現在、平成18年3月31日に設置された「看護学科開設検討委員会」を中心として、各種申請書類の作成、教員人事、カリキュラムの作成などの具体的な準備作業を進めており、平成19年6月末の設置認可申請を予定している。

3. 美保野キャンパス整備検討委員会の設置

美保野キャンパス整備（新校舎建設）に係る具体的な検討を推進するため、検討委員会が設置され、平成18年9月から検討に着手している。

検討委員会では、大学両学部・短大両学科、教務部・学生部、看護学科開設検討委員会など、それぞれの立場からの意見も持ち寄り、看護学科の開設に合わせて建設が予定されている新校舎と、体育施設の充実を中心としたキャンパス整備の内容についての話し合いが行われている。

「地域の食と健康を考える」パネルディスカッション開催

八戸大学・八戸短期大学

八戸市内の経済・教育・文化など各分野の有識者で組織する、八戸大学・八戸短期大学「教育・研究・社会貢献後援会」のテーマ別理事会「地域の食と健康を考えるパネルディスカッション」が11月28日、八戸第2ワシントンホテルで開催されました。

今回で通算3度目となるディスカッションでは、ビジネス学部服部昭教授が「地域のフィッシュビジネスの現状とフードシステム」について、人間健康学部の殖田友子助教授が「食育と健康増進の視点から見た食材」について、問題提起を行いました。

その後、武輪水産株式会社代表取締役社長武輪俊彦様、林料理学校校長・八戸調理師専門学校副校長林恭子様、人間健康学部の殖田友子助教授によるパネルディスカッションが行われ、「食育や健康増進を視点とした製品開発」や「地域の食生活」について、活発な議論が展開されました。

光星学院湊高台キャンパスリニューアル

今から50年前、学校法人光星学院 初代理事長 中村由太郎先生が男子高校を設立した。湊高台と称される現キャンパスは、創立当時、一面の畑であった。木造校舎が完成したのは昭和31年であり、有り余る能力とエネルギーを持つ若人のために体育館ができたのは学校創設から3年目であった。

その後、学校周辺は住宅地として変貌を遂げ、農道を唯一の通学路としていたが、昭和30年代後半から40年代には、しののめ幼稚園の建設、光星学院高校の学科増とともに鉄筋3階・4階建ての校舎が建設された。

地域と時代のニーズに応えながら、この50年で大きな発展をした光星学院高校は、この節目を期に今春にも新校舎建設に着手し来年の完成を目指す。また、同敷地内にあるしののめ幼稚園は、時代のニーズにあった幼稚園として生まれ変わる。湊高台キャンパスリニューアル計画は次のとおりである。



記事内容は、デーリー東北新聞より抜粋

「高校の新校舎は三階建てで、旧校舎の四階建て部分を残してこれに接続させる。しきりが少なく窓が多い開放的な建物となり、都会的な美しいデザインになっている。バリアフリーを意識してエレベーターを設置する。二階はすべてのフロアが平面でつながっており、生徒が自由に学習や交流の場として使えるラウンジが設けられる。

本年春には、しののめ幼稚園と白銀幼稚園の二幼稚園を統合し、新たな幼児教育のニーズに対応した八戸短期大学附属

幼稚園（仮称）を開園する。

駐車場はキャンパス全体で四百台を用意。一階の玄関近くには、百人以上を収容し、イベントなどに利用できる部屋を設置する。ステンドグラスを張るなど、カトリックの学校であることを象徴するような場にすることも検討している。

体育館などを除くと、生徒は土足で校内を動き回ることができるのも特徴で、中庭には演劇など文化活動ができる屋外ステージを設ける。その奥にもスペースがあり、工業技術科の生徒に自由に造園させる。」

いま光星学院高校は、創立50年を契機に、時代に相応しい展望を持って、これからの時代を切り開いて行こうとしている。カトリシズムの精神により人間育成を進めることを建学の精神とし、「愛」や「奉仕」などの実践を通して真に社会において、豊かで幸せな社会の実現に寄与できるような人材育成に努めることを主眼としている。

これからの半世紀、校舎も時代とともに木造、鉄筋と変遷をし、現在の湊高台キャンパスがある。しかし、年月を重ねるとともに施設設備への対応も必要となり、この節目を期に法人は、湊高台キャンパスリニューアル計画に着手した。



八戸短期大学附属幼稚園(仮称) 新築工事起工式



平成19年4月に開園する八戸短期大学附属幼稚園(仮称)の新築工事起工式が10月6日(金)10時より湊高台キャンパスで執り行われた。

生憎の雨の中、ビニールで覆われたテントの中で行われた起工式は、塩町教会の首藤正義司祭はじめ、来賓、関係者及びしのめ幼稚園、白銀幼稚園の園児約60名が参加し、鍬入れ式や工事の安全共同祈願を行った。

八戸短期大学附属幼稚園(仮称)の園舎は年度内の3月に完成し4月から開園の予定であり、本法人の幼稚園としては歴代7つ目の幼稚園となる。三八地区の幼児教育のさらなる発展を地域の皆様方と共に築き、21世紀の未来に向けてスタートした。

新しい園舎は、湊高台キャンパスリニューアルオープンに向けて、住宅地になった湊高台地区のシンボルになるようなイメージで設計し、セキュリティに関して意識しながら整った幼稚園にした。4月には、160名の園児を受け入れることとなる。

この幼稚園は教員の研究の場でもあり、八戸短期大学の幼児保育学科や光星学院高校保育科や八戸大学人間健康学部など法人全体の連携を強め、そのノウハウを生かし、教員の総力を挙げて質の高い総合的な幼稚園を目指す。

また、ご父母の皆さんの子育てに関する勉強や支援など親とのコラボレーションや朝早くから夜遅くまで預かることができる。幼稚園と保育所を混合させたイメージのサービスを考えている。

理事長 委員長として責務を果す 「是川遺跡ジャパンロード(漆の道)プロジェクト」について

八戸市と八戸市教育委員会ならびに東奥日報社が取り組んでいる「是川遺跡ジャパンロード(漆の道)プロジェクト」のツアーが、10月26日から31日まで実施された。

このプロジェクトは平成16年度にスタートし、これまで中国最古の約7千年前の漆遺物が出土している長江(揚子江)下流域をはじめ、黄河中下流域、中国東北部、韓国、ベトナムの現地調査や、国内での考古遺物・ウルシ植物、民俗・芸術などに関する研究調査を展開してきた。今年で3回目となるツアーは東奥日報社が主催しており、今回は同プロジェクト調査実行委員会の会長を務めている中村覺理事長をはじめ、調査団長の塩越隆雄東奥日報社社長、菅原壽郎八戸市助役などが参加して、長江中流域に位置する湖北省(武漢市)と湖南省(岳陽市・長沙市)を訪問した。

そもそもの「ジャパンロード」とは、日本を表す英単語「ジャパン」を小文字(japan)で書くと「漆器」という意味になることから命名された。日本には長い歴史と風土に育まれた高度で美しい漆工芸や漆の文化があり、西洋の人々は近世以降、漆器を「ジャパン」と呼ぶようになったという。そこで、日本の代表的な文化に位置付けられている「漆」をキーワードに、是川遺跡を中心として各種研究事業を展開しているのが「ジャパンロード(漆の道)プロジェクト」である。

中村覺理事長が同プロジェクト「調査実行委員会」の会長を務めていることから、平成16年度の第1回ツアーから3年連続して参加するなど、本法人としても全面的に協力している。プロジェクトの最終年となった今年は、これまでの研究成果を踏まえて「アジアシンポジウム」が12月3日に八戸市公会堂文化ホールで開催され、中国、韓国、ベトナム、日本の研究者が漆文化の起源や発展について研究報告と全体討論を展開した。日本の漆文化が中国の長江以南から伝わったという定説について多くの疑問点が挙がり、日本で独自に発生した可能性もクローズアップされて、漆の起源をめぐる議論が深められた。



中学校教員免許取得のための介護等体験実施

八戸大学

人間健康学部では、高等学校教諭一種免許状（保健体育・保健・看護）、中学校教諭一種免許状（保健体育・保健）及び養護教諭の教員免許が取得可能です。そのうち、中学校の免許を取得するためには、介護等の体験をしなければなりません。このことは、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」等により義務付けられています。今年度に17名の学生が市内外の社会福祉施設で5日間、特殊学校で2日間の計7日間体験しました。実習先では、介護・介助、または障害者等と接することが重要な役割となりますし、同時に貴重な経験となるわけです。介護等の体験を通じ、人の心の痛みのわかる人づくり、各人の価値観の相違を受け入れられる心を育てるという目的に一步でも近づいたことでしょう。

フェデラルウェイ市長一行と ハイラインコミュニティーカレッジの代表が 八戸大学を訪問

八戸大学

去る10月26日(木)午後に、八戸市の姉妹都市フェデラルウェイ市（合衆国ワシントン州）からマイケル・パーク市長一行と八戸大学と姉妹校関係にあるハイラインコミュニティーカレッジより藤原麻里子留学生部ディレクターが八戸大学を訪問した。

一行は早速、蛇口浩敬学長と懇談し、教育やビジネス活性化における協力関係、また地域と高等教育機関などの相互理解、協力の現状を紹介し、今後益々の協力・交流を語り合った。

その後キャンパス内の施設見学を行い、「農援隊」経営の学内カフェテリア「みほの茶屋」で学生メン



バーのもてなしを受け、また実際のゼミナールや、英語の授業見学も行い、終始和やかな雰囲気での大学訪問となった。

八戸観光大学開講

八戸大学

八戸大学・八戸短期大学総合研究所は、青森県との共催で、平成17年度に引き続き、観光ビジネスによる雇用問題の解決と地域経済振興を目的として「八戸観光大学」を開講した。

今年度の講座は、「あおりリズム人づくり大学はやて2006」というタイトルのもと、「グリーンツー

リズム」・「ブルーツーリズム」・「中心街学習観光」・「広域観光」という4つのテーマを設定しビジネスプランの説明と実践を行った。



大学院へ進学2名

八戸大学

本学商学部4年の山下真司君が筑波大学大学院に、佐々木奉文君が青森公立大学大学院に進学することとなった。本学在学生在が卒業後、私立大学の大学院に進学することは毎年若干名あったが、国公立大の大学院に進学するのは数年ぶりである。

以下、山下君からのメッセージである。

来年度、筑波大学大学院博士課程前期生命環境科学研究科に入学します。専攻は地球環境で、所属する研究室は土地利用研究室です。

研究計画は、地方公共交通のゾーン制の採用についてです。進学の動機は、今日の格差社会の影響が顕著になっているなかで、今自分は何をするべきか海外研修の経験を通して考え、アメリカのバス制度と土地利用について興味を持ったことでした。

人間健康学部の篠崎先生に勧められ、大学院に進学することを決意しました。

「八戸大学」 OB&OG訪問 part3



秋季国体弓道競技で
団体2連覇を果たした
横町恵美子さん

Q：まずは国体団体2連覇おめでとうございます。率直な感想をお聞かせください。

A：ほとんど実感はありません。周囲におめでとうって声を掛けられて、やっと少しずつ実感がわいてきました。それでも信じられない気持ちの方が大きいです。

Q：弓道を始めたきっかけと大学時代の弓道部での思い出を聞かせてください

A：始めたきっかけは、高校入学と同時に親に勧められたのがきっかけです。3年生の時に初めて国体に出場し、入賞したことで弓道への思いが強まり、大学進学を決めました。しかし、高校と大学の部活のあり方、弓道に対する考え方のギャップにとまどい、優美から離れたと思うこともありました。それでもなんとか続けてきて、大学時代だからこそ味わえる弓道を体験してきました。

Q：仕事と弓道の両立は大変だと思いますが、練習とかどのようにされていますか？

A：入社1年目は本当に大変でした。社会人になったことで今までの生活とは全く異なる環境におかれ、それについて行けずに体調を崩したりと。2年目からは快く送り出してもらうことが出来、日々の練習は仕事が終わってから道場に通り、週末には弘前で合宿という生活が約半年間続きました。

Q：最後に、今後も弓道を続けていきますか？

A：しばらく競技生活から離れることとなりますが、いつか必ず戻り、今度は2種目制覇を狙っていこうと思います。たとえ競技に戻れなくても趣味の1つとして弓道はこれからも続けていきます。

プロフィール

八戸市南郷区出身、南郷高校－八戸大学卒業後第一青果(株)に勤務(平成18年12月25日付退社)。高校入学と同時に弓道を始め現在五段。主な弓道の戦績は第60回岡山国体遠的優勝。第61回兵庫国体遠的優勝。

イルミネーション点灯式・クリスマスミサ

八戸大学

クリスマスを前にはらはらと夜空から舞い降りる雪たちを待ちわび、イルミネーションが飾られた。点灯式とともにチャペルにてクリスマスミサが行われ、聖なる夜に願いを込めた。(毎日PM16:00～PM21:00 1月末まで点灯)



ボランティアティーディの実施について

八戸短期大学

去る9月20日(水)に八戸市水産科学館マリエントにおいて、平成18年度八戸短期大学ボランティアティーディが開催され、ライフデザイン学科1年・現代ビジネス学科2年・各担当教員は、八戸市水産科学館マリエント周辺の海岸でゴミ拾い、海上保安庁による公開講座に参加しました。毎年の行事であるボランティアティーディも水産科学館マリエントや海上保安庁の方々の協力も得て成功裡に終了しました。

さて、今回の海上保安庁による公開講座は映画『海猿』などで一般的に知られるようになった海上保安庁の仕事についても説明を受けました。また、海難事故を想定した緊急時の対応と人工呼吸の方法、事故防止のための知識、またライフジャケットの装着方法なども実際に体験し、実りある一日となりました。

短期大学生でこのようにボランティア精神を持つことは、ヨーロッパ社会で社会的地位ある人達に浸透している社会貢献の精神『ノーブレス・オブリージュ (noblesse



oblige)』や、本学のカトリックの精神にも通じるものがあります。来年度のボランティアティーディはどのような内容になるかまだ決まっておりませんが、この価値観を受け継ぎ、ボランティアの灯火を消さないためにも長く続くことを切望する次第であります。

実習報告会の開催について

八戸短期大学

11月22日(水)午後1時より八戸大学会館にて、平成18年度実習報告会が開催されました。会場には短大幼児保育学科1、2年生全員のほか光星学院高校1、3年生も参加し、460席の会場が満員になりました。また、来賓として近隣の幼稚園や保育園から御参席いただきました。



幼児保育学科では保育園や幼稚園、福祉施設で合計48日間の実習があり、これらは短大生活の中心に位置しています。実習

報告会は、実習先で学んだり体験したことを2年生が報告するだけでなく、これから実習先に行こうとする1年生の「学びの場」にもなっています。

今年は市野沢保育所、イメルダ幼稚園、うみねこ学園の報告が各々20分間ずつありました。スライドやビデオ映像のほか、寸劇や実際に作った作品を見せての報告を、参加者たちは時々笑いながらも、メモをとるなど真剣な表情で聴いていました。また、活発な質疑応答もあり、報告者の体験を共有することで学びを深くしていました。最後に聖アンナ幼稚園の村本園長から講評をいただき盛会の中に終了となりました。

◆ 第2回交通安全講習会について ◆

八戸短期大学

学生祭期間中の10月27日・28日の2日間にわたり、今年度の雪道模擬体験(スキットカー)講習を実施した。

女子学生が多い八戸短期大学では、雪道や



アイスバーンでの事故などを防ぐ目的で、毎年この時期に八戸モータースクール並びに八戸短期大学父母の会の協力により講習会を実施している。

今年も自動車通学を既に行っている学生。並びにこれから通学する予定の学生合わせて150名が受講した。受講した学生からは次のような感想が寄せられた。

- a 怖かったぁ!!
- b こんなに雪道がすべるなんて…
- c 雪道は慎重に運転しなければ…

などの感想が寄せられ、学生は雪道の怖さを再認識した様子であった。青春の事故ほど辛いものはない。この冬を無事に乗り切ってほしいと祈るばかりだ。

光星学院高等学校創立50周年 記念式典・祝賀会が挙行される

創立50周年という大きな節目の記念事業につきましては、これまで関わって下さった多くの方々への感謝の気持ちを表するものとして実施致しました。

11月11日午前10時から、八戸市公会堂に於いて、関係各界から500名を超えるご来賓をお迎えし、全校生徒・教職員の総勢約1600名により記念式典を厳粛かつ滞りなく挙行致しました。国歌斉唱、物故者への黙祷に始まり、学校長式辞・理事長挨拶の後、歴代校長・歴代PTA会長・歴代同窓会長に感謝状が贈呈されました。また、ご来賓の方々を代表しまして、三村申吾青森県知事（代理：蝦名武副知事）、小林眞八戸市長、



大島理森（元文部大臣）衆議院議員、田名部匡省（元農林水産大臣）参議院議員からご祝辞を頂戴致しました。続いて北向一夫記念事業実行委員会会長より記念事業の紹介があり、「湊高台キャンパスの変遷」と題して校舎リニューアル構想の紹介を致しました。さらに、泉山翔平生徒会長による生徒代表のことがあり、最後に全員で「輝け光星」と声高々に校歌を斉唱して閉式致しました。

続いて講師に星野仙一氏（阪神タイガースシニアディレクター）をお迎えして行われた記念講演は生徒達に人生の示唆を与える貴重なお話でありました。

午後1時30分から八戸プラザアーバンホールに会場を移して行われた記念祝賀会は、泉山裕記念事業協賛会長の挨拶に続き、ご来賓を代表致しまして、田名部匡代衆議院議員からご祝辞を頂き、学校長がお礼を申し述べました。寿獅子・鏡開きの後、祝宴は賑やかな中にも和やかに終了致しました。

その他の主な記念事業としましては、6月17日・18日に横浜高等学校（平成18年春の甲子園優勝校）、駒澤大学付属苫小牧高等学校（平成16年・17年夏の甲子園優勝校）を迎えての野球親善試合で一万名を超える地域の皆様に国内トップレベルのプレーを楽



しんで頂きました。さらには、9月19日に韓国の東北高等学校（姉妹校20周年）を迎えたサッカー親善試合では、全校生徒が応援して親善交流を深めました。

各記念事業の実施にあたり、記念事業協賛会を始め、皆様方から頂いた温かいご支援に感謝申し上げます。この節目を契機とし、生徒の夢実現に向かった教育活動に自信と誇りを持ち、更なる発展を期して新たな出発を致す所存であります。



「50周年記念講演」

阪神タイガースSD 星野 仙一氏

平成16年12月、山西校長先生より正式に50周年の式典を行いますということが伝えられました。その中で様々な記念事業と式典の際に講演を企画するようにとのことでした。講演の人選には文化人・スポーツどちらにするのかということになりましたが、私がスポーツ関係の方であれば「星野さんなんかはどうでしょう」と言ったことが、この記念講演の始まりとなりました。数日後に関係者の方々から「本当に星野さんと呼べるのだろうか、来ていただけるのであれば是非お願いしたい」ということで、正式に星野氏の講演依頼の準備に入りました。

簡単に引き受けたものの交渉は困難を窮め、改めて大変な方をお呼びするのだなと感じたものです。それでも何とか依頼を了承していただき、具体的な話をする段階へと進み、様々な注文・要望がありました。私自身も不安を持ちましたが、何よりも当日の生徒達は大丈夫だろうかということが一番の不安でした。

式典の当日、式の最中に星野さんが会場に到着され、緊張して星野さんに講演を引き受けていただいた御礼を述べたところ、苦笑いしながら「本当にエライことを頼んできたな。」と言われました。それでもその後は笑顔で対応してくださり、また高校生にあまり話をしたことがないとのことで不安も覗かせながら講演が始まりました。

大きな拍手を受け始まった講演は、「アツという間」の80分間で、来賓のお客様はもとより不安に思っていた生徒達もすっかり星野さんの魅力に引き込まれ、会場が一つになったようでした。特に質疑応答では最高潮に達し、素直な質問を投げかけた生徒も立派で、また、星野さんの熱いメッセージが会場全体に感動を与えました。

大変だった事が全て吹っ飛び、心の底から星野さんに来ていただいて本当に良かったと思うと同時に、本校の生徒達を誇りに思える記念講演でした。

硬式野球部監督 金澤 成奉



読売ジャイアンツ ドラフト1位指名

硬式野球部 坂本 勇人君



平成18年9月25日、2006年プロ野球高校生ドラフトで坂本勇人が読売ジャイアンツから1位で指名されました。本校硬式野球部から4人目、そして野手では初めてのプロ野球選手が誕生しました。坂本選手は、光星学院高校入学当初から素晴らしい素質を持っており、順調に育てば将来はプロになれると我々指導者は思っていたのですが、高校からすぐにこれほどの高い評価をもらえるとは想像もできませんでした。これも本人の努力があつてのことだとは思いますが、諸先生方のご指導または学校のバックアップがあったお陰だと感謝しております。

これからの坂本選手の活躍を期待し、皆様におかれましては、変わらぬご声援を宜しくお願い致します。



創立50周年記念式典に参加してのお礼

学院長 中村キヤ

昭和31年アチールクルノイエ校長先生を迎え、私立の男子高校としてスタートした光星学院高等学校の創立50周年という節目の記念式典に参加できて嬉しく思いました。

私も普段は自宅に引き籠もりの生活でしたが、11月11日はどうしても参加したくて車椅子で参加させてもらいました。あの公会堂が35周年の時もそうでしたが、今度もいっぱいの人で埋まり大変立派な記念式典で感動しました。光星学院は50年の月日に多くの人たちに育てて頂いたという実感がして、ただただ皆さんに感謝するばかりでした。ありがとうございました。

ところで、今世の中はいろんなことでメディアを騒がしています。でも何時も気になるのが教育の問題です。戦中戦後の教育に携わり改めて混沌とした現代教育の行方に心配をしています。先生方は一生懸命に頑張っているのに、どうして毎日殺人、いじめが、そして学校運営上の問題が新聞、テレビをにぎわしているのでしょうか。

教育の荒廃が言われて久しいのですが、本当の人間教育を学校がしていかなければと思います。有名校への進学もレベルの高い技術の習得もそしてスポーツの優勝も、やっぱりその根底には人間育成がしっかりとしていないと何にも意味のないことだと思うのです。こうした反省は、戦後の日本の社会発展と相まって心の育成が伴わないと指摘されるところでしょう。

私は今こうした現状を鑑みるにつけ、我が法人の教職員が皆カトリシズムの建学の精神に立脚する光星学院の使命をしっかりと確認して、互いの人格を大切に、そして命の大切さを教えてもらいたいと思います。そして、真に世の中の平和・幸せ・心豊かな人材育成に一層の努力をしていかなければと思います。

本日は、50年という歩みを肌で感ずることができて、来賓の方をはじめとして、卒業生並びに教職員の皆様方から、これからの光星学院を思い浮かべることができました。さらに、大きな力を皆様方から感ずることができましたことに心から感謝を申し上げお礼の言葉とさせていただきます。



地域住民の輸送にスクールバスを運行

東北運輸局企画観光部交通企画課主催のもと「八戸市における持続性の高い地域交通実現のための再編モデル実証実験プロジェクト」ワーキング会議があり、八戸市美保野・種差地区における生活交通確保に向けた、公共交通再編実験の実施計画と地域資源の活用方策について検討を行ってきました。

また、採算性の低いバス路線改善モデルとして、美保野・南浜・金浜地区の生活交通に合わせた持続可能な公共交通のあり方も合わせて検討し、地域（美保野・金浜・南浜）住民の公共交通機関として運行を協力することになりました。

ついでに、法人所有のスクールバスを利用して、病院又は、旭ヶ丘営業所を経由する路線、上り（法師浜→湊高台）下り（湊高台→法師浜）を下記の期間に右記運行ダイヤ表のとおり運行することになりましたのでお知らせいたします。

記

実験運行期間 平成19年1月15日(月)～平成19年2月2日(金)
(土日を除く15日間運行)

運行ダイヤ表 右記のとおり

利用料金 無料

問い合わせ先 住所 八戸市美保野13-98 八戸大学内
担当 総務課 施設担当課長
川村広志(かわむら ひろし)
電話 0178-25-2711

●運行ダイヤ● *新規バス停を網掛け、()は回送

上り(法師浜→湊高台)		下り(湊高台→法師浜)	
経路	ダイヤ	経路	ダイヤ
(八戸大学)	9:21	(八戸大学)	13:40
法師浜	9:30	美保野病院	13:44
高岩	9:31	関口内科	13:53
南浜中学校前	9:32	東八戸病院	13:53
大久喜	9:33	東霊園	13:56
下大久喜	9:35	湊高台2	13:59
金浜	9:38	平和病院	14:00
金浜口	9:39	湊高台4	14:01
金浜駅前	9:40	四本松	14:07
上金浜	9:42	湊病院	14:08
金浜小学校前	9:44	旭ヶ丘営業所	14:13
新規バス停(金浜林ノ前)		旭ヶ丘東口	14:16
八戸大学	9:55	小久保平	14:17
短大前	9:58	出口通	14:18
美保野3区	9:59	町畑平	14:19
美保野2区		花通生	14:20
美保野1区		美保野口	14:21
美保野病院	10:01	美保野1区	14:23
関口内科	10:06	美保野2区	14:24
東八戸病院	10:06	美保野3区	14:25
東霊園	10:08	短大前	14:26
湊高台2	10:12	新規バス停(金浜林ノ前)	
平和病院	10:14	金浜小学校前	14:37
湊高台4	10:16	上金浜	14:39
四本松	10:20	金浜駅前	14:41
湊病院	10:21	金浜口	14:42
旭ヶ丘営業所	10:24	金浜	14:44
(旭ヶ丘東口)	(10:28)	下大久喜	14:48
(小久保平)	10:29	大久喜	14:49
(出口平)	10:30	南浜中学校前	14:50
(町畑通)	10:31	高岩	14:51
(花生)	10:33	法師浜	14:53
(八戸大学)	10:40	(八戸大学)	15:03

学園祭特集

★第26回 秋桜祭★

八戸大学

第26回となる八戸大学「秋桜祭」が、10月28日、29日の2日間にわたって開催され、大勢の学生や市民が美保野キャンパスを訪れました。

今年の大学祭のテーマ「a wonderful opportunity ~すてきなキッカケ~」は、大学祭をとおして新たな自分の発見、今までにない出来事との出会い、そのキッカケが“すてきなキッカケ”につながるようお願いを込めました。ご来場のみなさまへ少しでもそのキッカケを与えられるよう、さまざまなイベント、模擬店を実施しました。その一つが昨年好評だったストリートパフォーマンスコンテストです。初日はダンス部門、2日目はミュージック部門に県内外から多数のチーム・バンドが参加し、大学祭を盛りあげてくれました。また、系列校の光星学院高校の吹奏楽部の演奏、女装コンテスト、そして今回のイベントの目玉である「タカチャ」ライブでは、会場全体が熱気に包まれ、最高潮のうちに大学祭を終えることができました。

今年度の大学祭は、賛同してくださったみなさまのおかげで、ここ数年の中でとても思い出深い大学祭となりました。



来年度もみなさまが楽しんでいただけるよう、より一層充実した大学祭としていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

ひかり さい 第36回八戸短期大学光華祭 過去最高の入場者となる



八戸短期大学

さる10月28日(土)、29日(日)の二日間にわたり、「開華宣言(かいかせんげん)」のテーマのもとに、八戸短期大学で学生祭実行委員会主催の第36回学生祭(「光華

祭(ひかりさい)」が開催された。今回は、一般入場者数が二日間で延べ1695人と過去最高を記録した。

今回の特色としては各学科から学科の特徴を生かした企画が出展したことで、幼児保育学科の「子ども百貨店」は、子ども達にその会場だけで通用する「手作り貨幣」を渡して「お買い物ゲーム」を楽しんで貰う、というもので、店内には「じゃんけんぴょん」など14店舗が軒を連ね、お店の景品や製作物の素材は学生達が何ヶ月も掛けて作った手作りであり、子ども達は、世界に唯一無二の景品を手にして喜んでいました。

現代ビジネス学科の「デジカメ印刷工房」は、来場者のデジタル写真を撮らせて貰って、Tシャツや平成19年カレンダーに印刷して渡すというもの。

ライフデザイン学科の「ニュースポーツ体験コーナー」は、手軽に楽しめるレクリエーションとして最近人気が出ている「バンブーダンス」などを体験して貰おうという企画で、子ども達は、係の学生からやり方のこつを聞きながら、一生懸命遊んでいた。

光星祭を終えて

光星学院高校

創立50周年の節目の年に行われた今年の光星祭は、天候にも恵まれ、昨年、一昨年を大きく上回る1100人以上の地域の方をお迎えし、盛況の内に二日間の日程を終えました。来年度の新校舎建設により、旧校舎最後の光星祭となりました。

普通科でも現校舎を使った最後の展示となり、「光星高校50年の歩み」を生徒が振り返りました。50年の年表に写真・創設時の資料・卒業生に取材したエピソードなどを交え、大変興味深く50年の長い歴史を振り返ることができたと同時に感慨深い展示となりました。その他各科のどの展示も、普段の学習内容を中心によく紹介されており、各科、各コースの特色がよく現れ、力作揃いでありました。

模擬店は今年、「グルメ横町」と名前を変えましたが、参加が三店増え、さらに賑やかになりました。各部活動の生徒が日頃のチームワークを発揮し、素晴らしいグルメを提供してくれました。



第32回野西高祭の紹介

野辺地西高校

10月14日・15日の両日、「百花繚乱～個性が花咲き乱れ散る～」のテーマのもと、野西高祭が開催されました。初日は校内開催で、一般公開は日曜日のみの開催となりました。幸い天気にも恵まれ、多数の来校者を迎えました。

展示内容は総合学科展、文化部展、クラス展・PTA食堂や模擬店、少年親善レスリング大会でした。

特に力を入れたのは総合学科展の展示です。本校の特色である総合学科の内容がわかるよう、各系列ごとの内容をわかりやすく紹介したものです。産業技術や人間福祉といった本校の特色をだしました。

また話題を呼んだのは、ドイツ展です。今年の9月に来日して1ヶ月しか経っていない留学生の紹介・展示を行いました。ドイツのデュッセルドルフ出身の17歳のガブリエル・リヒター君は今年の6月まで日本語・日本文化の勉強を続けます。彼の母が文化祭の前日に来日しドイツ展のための荷物を日本に自ら持参していただき彼の母国の風土・文化を紹介するものとドイツのお菓子(クレープをやや薄くしたもの)のサービスで、甘さを抑えたその風味が来校者の好評を得ていました。国際親善が深まった一日でした。



慶應義塾大学合格!! 本校初の快挙



光星学院高校

進学コース 坂本 好さん

光星学院高等学校から、神宮の森で、あの「陸の王者 慶應」で有名な応援歌「若き血」を歌える生徒が誕生しました。その生徒は、下長中出身の坂本好（このみ）さんです。坂本さんは、

超難関の慶應義塾大学 環境情報学部へ本校から初めて合格しました。坂本さんは、はじめは普通の高校生活をしていましたが、先輩達の有名大学進学などが自ら慶應に行きたいという意志を持ち始めることにつながり、それからは常に勉強に集中し、また、生活面の充実を意識的にこなし、自分を高いレベルに上げる努力を心掛けていました。その甲斐あって活動報告書や面接の時のプレゼンテーション（バイオテクノロジーについて）では、担当教授から高い評価を受けました。また、坂本さんの合格は、単に快挙だけでなく、このように自分がきちんとした目標に向けて一生懸命努力すれば、必ず夢が叶うということを、身をもって私達に証明してくれたと思います。

最後に、坂本さんには、多くの人に感謝の気持ちを忘れないことと、大学で思う存分青春を謳歌し、自分が憧れた研究を納得いくまでやり、多くの人に高い評価を受けることを希望します。

第61回国体レスリング 「師弟揃っての優勝」

光星学院高校

*少年フリースタイル60kg級・優勝 小田裕之

*成年フリースタイル66kg級・優勝 金淵清文

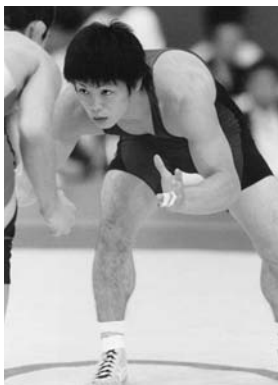


10月1日～10月5日、兵庫県猪名川市で行われた国民体育大会レスリング競技において、少年フリースタイル60kg級で小田裕之、成年66kg級で金淵清文が優勝した。

小田は一階級上げての挑戦であったが、減量苦から解放されたことで挑戦者の心を取り戻し、心身共に最高のコンディションで最高の結果を残すことができた。私、金淵は相手のチャンスを潰し、自分のチャンスを確実に掴むことで体力面の不安をカバーできたことが勝利につながった。

普段から共に汗を流し、同じ目標で臨んだ今大会。最高

の成績を残せたことで胸を撫で下ろしながら、次への目標に向かって邁進していく所存であります。



東北大会(新人戦)を制す 陸上競技 男子1600mリレー

光星学院高校

トラック種目の中で唯一の団体競技のリレーは、学校対抗戦の色合いが強く、すべての競技会で最終種目としてどの学校でも最も力を入れ最も盛り上がる種目の一つです。



県大会では、最後で逆転を許し無念の2位でしたが、その後の試合で好記録を叩き出して勢いはありました。特記すべき事は、先に本校初のインターハイ出場を果たした入江亮を中心に努力とチームワークで力をつけてきたメンバーであるということです。青森県初のリレー制覇のため、中村智美先生の指示のもと入江が200m決勝を棄権しリレーにかける作戦に出ました。青森県内の他高校など友情応援を背に、1走瀧田健人が好スタートを切ると2走入江亮が2位まで押し上げるいつも通りの力走、3走松川達也が先頭を捕らえトップに立ち4走沢田裕太が後続との差をクングン広げガッツポーズで青森県初優勝のテープを切りました。今でも鮮明に記憶に残るレースとなりました。

深まる地域との交流

— あぎんど祭りとパソコン講座 —

野辺地西高校

10月21・22日の両日、野辺地町の商工会主催の「野辺地町ずっぱど・わっかど・あぎんど祭り」が開催され、野辺地西高校も「チャレンジショップ」で参加しました。

商工会から仕入れ費用15万円・準備金4万円を貸していただき、それを元手に「商売」にチャレンジするもので、生徒・教職員30名で、取り組みましたが、実際に仕入れの商品をどう決めるか、飾り付けをどうするかなど、様々な苦労がありました。



ホタテ・りんご・野菜各種を商品として生産者から購入し、販売しましたが、鮮度を保つことが大変でした。

中でもホタテは二日間で300kgを仕入れた為にうまくさばけるか、心配でした。商工会からホタテをいただくなどご協力を得て何とか完売でき、安心しました。

ふだんは客だった生徒達が売り手になり、二日間販売するという体験はとても大変だったようですが、学んだものは大きく、「勉強になった」「楽しかった」という声が多く聞かれました。

また、パソコン講座が10月・11月の6日間（金・土の2時間）開催されました。町内在住の方で、パソコンの初心者又は基礎を学びたい方20名を対象とするものでした。短い期間でしたが、受講者の好評を得ました。

今回の二つの催し物は町民の方と学校とのつながりを更に深めてくれました。

ミニSL出発進行!!



野辺地西高校

今年のもづくりクラブは、長年出場していたソーラーカーを取りやめ「子どもたちを楽しませるものを作りたい」という気持ちで

顧問と部員が話し合った結果、ミニSLを作ることに決まった。限られた予算と設計図も何もない状態から悪戦苦闘、試行錯誤の連続でした。手探りの状態で進んだ製作はだんだん形のあるものになってきましたが、いろいろな問題が出てきました。

10人前後の子どもたちを乗せて進むためには、その重さに耐え、それなりのスピードを保たなくてはなりません。しかし、丈夫な作りでは遅いスピードになるため、その加減が難しくて困りましたが、ギア比の調整でなんとか解決しました。また、車体のバランスや配線など見えない部分も工夫したところです。

約4ヶ月かかって車体・客車の完成、塗装などを経て完成にこぎつけました。モデルがトーマス君だったので、その弟分のような感じになりました。9月のテスト走行後、10月の文化祭(野西高祭)でのお披露目となりました。文化祭でのデモ走行はとても好評で、順調な走りを公開できました。翌週のあぎんど祭り(野辺地町の産業祭り)でも好評でした。

企業実習を終えて

光星学院専攻科

専攻科自動車科1年 高橋孝裕

10月16日から27日までの2週間日産サテリオ青森(株)八戸旭ヶ丘店に企業実習でお世話になりました。

初日は、まず現場の流れをつかむために午前中、作業を見学しました。手際のよさと、スピードの速さに驚きました。午後になり、エンジンオイルの交換作業を手伝いました。

次の日からは、ブレーキパッドの点検・交換などの作業をやらせてもらえるようになりました。

毎日の作業で一番多かったのは車検でした。今まで頭でしか理解していなかった車検整備を実際に自分で行い、理解を深めることが出来ました。

後半に入ると、ストラット交換や、タイミングベルト交換などの作業もやらせてもらいました。次第にディーラーの人達とも仲良くなる事が出来ました。

今回の実習では実際に社会で活躍している整備士の技術だけでなく、社会人・プロとしての仕事、責任、上下関係の大切さなども身をもって知ることが出来ました。

長いようで短い充実した二週間でした。



「さあ、みんなで楽しく食べよう！」

炊事遠足実施

光星学院野辺地工学専門学校

去る10月14日(土)振り替え授業で出校日の日、光星学院野辺地工学専門学校では学生会主催の恒例のバーベキューを実習場脇の空き地で実施しました。7月12日の「サンセットビーチ浅虫」での炊事遠足に次いで2回目の実施となりました。企画運営は全て学生会で行い、毎年恒例とはいえ誠に手際よく進めていきました。

特に今年は、1, 2年合わせての遠足行事はこれで最後となりますので、特別に2回実施となりました。ホントに貴重な一日となりました。2年生と1年生が和気藹々と、買い出し係に調理係、火起こし係やら普段の学校生活とはひと味違った面が見られて大変ほほえましい光景でありました。

最初に学生会会長山一康隆(野辺地西高校出身)が「みんな親睦を深めながら楽しく安全に実施しましょう」と挨拶し、学生間の親睦交流と先生との交流信頼関係の構築に意義深い一日となりました。浅虫海岸で



は公共の場所でのマナーとしてゴミの処理、後始末にも十分気を配っていたようでした。地域から愛され評価される学校をめざして大変貴重な行事体験でありました。

地域に開かれた図書館として

八戸大学・八戸短期大学図書館

本館は、大学・短大の学生や教職員はもちろんのこと、法人内の各施設の教職員にも広くご利用いただいておりますが、『地域に開かれた図書館』として、広く一般市民の皆様にもご利用いただくことができます。大学・短大の地域貢献が広く求められている今日においては、大学・短大の附属機関である図書館もその例外ではありません。

大学と短大の図書館が合併した平成11年4月から本年9月までに本館に利用者登録された一般市民の方は183名となっており、平成17年度の一般利用者の入館者数は延べ623名、館外貸出図書の利用は延べ163人で379冊となっています。平均すると、1日に約2.6人の一般市民の方が本館を利用されていることになり、貸出カウンターにいと、最近では顔なじみの常連さんも増えてきたと感じますが、「一般市民の方でも本館を利用できる」ということをご存じない方もまだまだ多く、『市民にも開かれている大学図書館』として認知され、美保野キャンパスが市街地から離れているので利用が不便だと思っている方々にも利用して戴ける様、本年度からは総合研究所市内オフィスのご協力を得て、図書館サービスの一部を市内オフィスでも提供しています。

◎◎ 総合研究所だより(3) ◎◎

八戸大学・八戸短期大学総合研究所

今回以降は総合研究所の紀要の歴史を辿りながら研究所の生い立ちに目を移していこう。

紀要第1号発刊までの歴史については「八戸大学産業文化研究所紀要」1号の発刊の辞に詳しく述べてある。すなわち八戸大学の創設は1981年4月であるがその併設機関として当時は「八戸大学経済文化研究所」と称してスタートを切ったのが総合研究所の始まりであった。この時期から既に“大学において、この地域連携の窓口”となっていたのである。

1981年に早くも協同組合八戸総合食品センターから調査研究を受託したのがその活動の第一歩であると記されている。その後1983年9月に作製された「八戸大学産業研究所規定案」の頃から「産業文化研究所」の名称が定着し、その規程の中には研究所は「産業文化の転換期に際し、広域寒冷地産業と生活文化の結節点をグローバルな視点から探求し、情報化社会を先取りして、広くその発展に寄与することを目的とする」とうたっている。

その後、更に研究所の活動は拡大し、研究所が中心となって、1985年には地域住民を対象とする「八戸大学公開講座」第1回開催にこぎつけるのである。しかし、今だ研究所の成果を刊行物として世に問うまでは至らなかったが、ようやくにして待望の「産業文化研究所紀要」第一号が発刊されたのは1989年3月であった。当時の学長は小山内時雄学長である。

春からよろしく！

～統合に向けて交流活動～

白銀幼稚園

しののめ幼稚園と白銀幼稚園の年中4歳児以下の子どもたちは、平成19年4月開園の八戸短期大学附属幼稚園（仮称）での生活に向けて、交流活動を行った。



第1回目は白銀幼稚園で実施。当日11月14日の天候はあいにくの雨で、予定していたチューリップの球根植えは残念ながら取り止めて、屋内の遊びに変更となった。初めはぎこちない態度の子どもたちだったが、手遊びをしたり、教具を共有して遊んだりするうちに、自然に言葉を交わすようになり、給食をいただく頃には“同じクラス”という雰囲気醸し出していた。「先生、あのね…」とお互いに相手の園の先生に話しかける光景はほほえましくもあった。

2回目はしののめ幼稚園で。4歳児が椅子取りゲームに興じ、小さい組では仲良くままごとなど、「また遊ぼうね！」の気運が高まった。

P T A『空の会』の活動

～わが子を自分の手で守る！～



白銀幼稚園

“空は、地球上のどこまでも、宇宙にまでつながっていて、遠くから穏やかに私たちを、子どもたちを見守ってくれている。

そんな広い大きな空の気持ちで、時には雷を落とし、時には暖かい空気を送り、雨の日風の日つらい日にもどんな時にもどこにいても、共にある”という意味からP T Aの通称を『空の会』としている。

父母の皆様は、自分のできる範囲でできることを、そして、子どもも親も共に楽しめる行事への参加と、P T A活動を意義深いものにしていく。

11月14日には、八戸東消防署鮫分署のご協力を得て、救急救命講習会を実施した。購入したばかりのA E Dの使用法を含む心肺蘇生法や、幼児人形を使っの異物除去等の実技を熱心に行い、難しさも体験しながら、我が子を守るとの意を強くしていた。

★デパートでお買物体験★

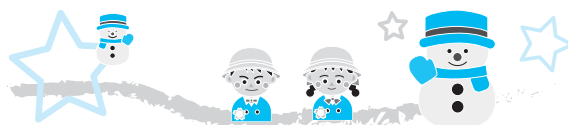
～どれがいいかなあ～

白銀幼稚園

「あらー、珍しいわね、白銀幼稚園ではお買物に来るんだ。いいわね。」三春屋デパートに着くなり、入口付近で出会った祖母・母・幼児の3人連れの方に声をかけられた。

恒例のお買物体験では、満3歳児から5歳児まで全員が制服制帽で整列して階段を昇り降りしている。買い物に整列、と思われるかもしれないが、大勢で目的地に向かう時に、我も我もの押し合いへし合いではなく整然と歩く体験の必要性は、9.11ショックなど災害に見舞われた時の状況等からも考えさせられる。

ともあれ、公共心を養うことと、限られた金額で買える品物と品数を工夫するとのねらいが達成でき、大満足の11月29日であった。



焼 い も 大 会

～一石？鳥でホクホクの焼いも～



白銀幼稚園

朝から雪がちらつき再延期が危ぶまれた11月30日、運よく雪も止み、子どもたちが待ちわびていた焼いもの日となった。今年も父母の方々8名が自主的に参加して下さり、落ち葉集めや焚き火の管理。風がなく煙が立ち昇るばかりだったが、“強い心で”を合言葉に、人工の風を送り続けて焼き上げた。

紅葉がきれいだと思うのもつかの間、あっという間に枯葉が舞い、芝生の園庭が落ち葉で覆われてしまう。

芝を傷めないよう、せっせと枯葉を集め、畑で焚き火にしてお芋を焼く。残った灰は畑の肥料となって土に還る。自然の営みに逆らわず、自然と共に在りながら真黄色のホクホクお芋をほおばることができる幸せを実感できた日でもあった。

★ 星の子音楽会 ★

11月9日(木)10:00より八戸市公会堂において、附属幼稚園6園の年長園児による「星の子音楽会(合同音楽祭)」が開催された。「星の子音楽会」は今年で6回目。合同音楽祭として通算26回目となる。

会場には来賓をはじめ、大勢の父母の皆さんがかけつけ、また職場体験学習中の白銀南中学校の生徒10名も見学を訪れていた。

音楽会は八戸短期大学のウィンドアンサンブルの入場演奏で6園の全園児がステージ上に集まり、全員での合唱ではじまった。

八戸短期大学内海学長補佐の挨拶後、白銀幼稚園の松坂健太くんと石橋明香里さんが「ちょっぴり緊張していますが一生懸命演奏します。」と挨拶をし、各幼稚園の楽曲が演奏された。

各幼稚園の演奏が終わるたびに会場内から大きな拍手が送られていた。見学していた白銀南中学校の生徒達は「はじめて観るのすごく楽しい。かわいい。すごくいい。」と声を弾ませていた。

ステージ裏では、先生方がやや緊張、園児たちは元気に発声練習をしたり、きちんと並んで自分達の出番を待っていたのが印象的だった。



もちつき会

びわの幼稚園

年の瀬を控えた12月15日(金)、びわの幼稚園ではPTAのご協力を得て恒例の「もちつき会」が行われました。

お母様方は数日前から打ち合わせを行い、前日は米ときや食材・臼・杵・もちつき機などの準備に奔走。当日は米を蒸したり、海苔を焼いたり、あんこ・きな粉・しょうゆだれを作ったり、つき上がったもちを丸めたりと大わらわ。

子どもたちは頭にキリリとバンダナを締め、園長先生からおもちの由来を聞いた後、お父様方のもちのつき方を見学。おもちつきの歌も歌いました。次にお父様方に助けられながら一人ずつ子供用の杵を持ってもちつきを体験。ポーズを決めて写真撮影。年長さんは大人用の杵に挑戦し、お兄さんお姉さんぶりをを見せてくれました。杵を振り上げ振り下ろすたびに「よいしょー、よいしょー」と大きな歓声が上がり、幼稚園のホールは年末らしい雰囲気になりました。

つき上がったおもちはお母様方があんこもち・きな粉もち・磯辺もちにして、大きな口を開けてほおばる姿は天真爛漫。子どもたちは「おいしい!」を連発。口のまわりに付くきな粉、ほっぺたにあんこをつけながら食べている子もいました。何度もお代わりする子がたくさんいて、お母様方はおどろいてました。

自宅で臼と杵を使ってもちつきする光景がほとんど見られなくなった昨今、日本の伝統を体験する貴重な機会となっています。

謹 賀 新 年

お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

平成19年 元旦

八戸大学後援会会長
八戸大学父母の会会長
八戸大学同窓会会長

山田政信
夏堀文孝
柳町仁

八戸短期大学後援会長
八戸短期大学父母の会会長
八戸短期大学同窓会長

佐々木正雄
松田一子
羽賀玲子

光星学院専攻科PTA後援会会長
光星学院専攻科同窓会会長

椿鉄男
松川敏雄

野辺地工学専門学校PTA会長
野辺地工学専門学校同窓会長

山一清彦
古川良彦

光星学院高等学校後援会会長
光星学院高等学校父母と
教師の会会長代行(副会長)
光星学院高等学校同窓会会長

北向一夫
河原木誠
豊島典興

野辺地西高等学校後援会会長
野辺地西高等学校PTA会長
野辺地西高等学校同窓会長

八木橋哲二
藤原経雄
杉山正七

しのめ幼稚園PTA会長
多賀台幼稚園PTA会長
白銀幼稚園PTA会長

近藤路子
木村邦和
荒井和美

聖アンナ幼稚園PTA会長
第二しのめ幼稚園PTA会長
びわの幼稚園PTA会長

塚原郁子
大沢千恵子
本間寛

今春開園 八戸短期大学附属幼稚園(仮称)

ごあいさつ

平成19年4月、八戸短期大学附属幼稚園が誕生いたします。

当園は学院のカトリック精神に基づき、「命の大切さ」と「心の豊かさ」を育む教育を進めてまいります。子どもたちが大好きな先生や友達と一緒に生活し遊ぶなかで、心に残るたくさんの体験を積み重ねて、日々成長していくことを大切にしていまいります。

短大との連携による教育活動と教育環境については下記に述べているとおりですが、もう一つ大きな特長があります。それは「お母さんに優しい幼稚園」ということです。働くお母さんにも手厚い育児支援が出来るよう「預かり保育」や「学童保育」「土曜預かり保育」などを充実させてまいります。

子どもたちには「心地よい環境」を、保護者の方々には「優しく温かい幼稚園」を提供したいと考えております。教職員一同、若さとチームワークで新幼稚園の構築に邁進する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



園長 外崎 充子

《教育目標》

明るく元気な子

心の豊かな子

自分の考えも持てる子

《教育活動》

- モンテッソーリ教育
- 体操・英語・造形絵画・リトミック
- 自然体験活動
- 子ども赤十字活動

《教育環境》

- IT教育環境・保育観察室
- 幼児教育センター
- 冷暖房・防犯セキュリティー完備
- AED(自動体外式除細動器)設置
- 完全給食・バス送迎あり

《各講座開設》

教育相談・カウンセリング・パソコン講座等保護者を対象とした講座を開設します。

お問い合わせ先

しのめ幼稚園 ☎0178-34-5765

白銀幼稚園 ☎0178-33-7150